

刊行物の購入、講演大会での発表が挙げられている。

2) 鉄と鋼

鉄と鋼の専門または興味ある論文・記事が85%を越す会員に読まれている。論文類と会報類の記事構成比は51.8%が現状でよいとしている。論文の内容、質はともに適当、利用度は役に立つが大勢である。会報類の記事では技術資料、解説、講義、展望、技術トピックス等に拡充の希望があつた。

問15鉄と鋼の発行形態では①現状維持 48.3%であるが、②会報+論文集 13.4%、③会報+論文集 2種 38.3%と方法は別として 51.7%が分冊の志向を示している。これを問4職務別と、問6年令別の層別に絞つてみるとまず職務別では管理・その他部門が①現状維持 55.5%であるのに対し、現場部門(②+③) 54.9%、研究部門(同) 57%、教職部門(同) 64%となつており、この3部門は分冊型である。また年代別では現状維持が41~50才が49.7%、51才以上が62%であるのに対して、30才以下(②+③)は60%、31~40才は(同) 57.8%が分冊型となつている。若年層に分冊志向が多くあるのに対し、41才以上では管理・その他担当職務の関係から現状維持の比率が高いように思われる。

3) 講演大会

講演大会の出席経験は87.0%の多くを数え、講演発表の有無は63.0%とほぼ2/3である。これを問4-①現場部門についてのみ絞つて見ると大会出席81.2%、講演発表63.1%となつている。討論会では取上げているテーマならびに件数とも適当としている。ポスターセッションは会場が確保出来れば継続(38.4%)、発展(19.9%)の希望が高い。

講演数の増加対策としては会場の確保47.3%、会期の延長28.1%と前向の対処が望まれている。

3. 寄せられた意見

本アンケートでは112名の会員から種々ご意見が寄せられたが、主要なものを列挙すれば次の通りである。

1) 事業全般について

(1) 高校生の金属・冶金分野に対する人気の低下、大

学金属専攻者の質の低下は、将来鉄鋼業界に深刻な影響を及ぼすのではないか。協会として何かPR的な方法は考えられないか。

(2) 事業内容が技術寄りのきらいがある。学術面拡充の検討を望む。

(3) 研究者、技術者の励みになるとともに将来の日本鉄鋼業に裨益するための若年層を対象とした海外との交流促進の企画を立てる。

(4) 支部活動の活発化を図る。講演会、その他の集会などの内容の充実。

2) 「鉄と鋼」について

(1) 「鉄と鋼」を分冊にするのはよいが、他学会に見られるような論文集と会報には疑問がある。分冊の仕方に十分な配慮が必要。

(2) 年間の掲載論文数を増やし会費を値上げしたらどうか、あるいは1論文のページ数を増やし投稿料を徴収したらどうか。

(3) 専門外の論文・記事が多く保存上に問題があるので、専門毎に分冊にしてはどうか。例: Metallurgical Transaction A, Bのごとく。

(4) 必要な論文などが抽出できるような製本が出来ないか。

3) 講演大会について

(1) 講演概要集のページを増やし、内容が理解出来るように充実させ、文献引用が出来るようにして欲しい。

(2) 講演発表の際、一般にスライド数が多すぎ注意が散漫となるので必要不可欠なものに絞るとか概要集のページ数を増やし、図・写真を載せるとかして欲しい。

(3) 発表の増加は望ましいが質の低下を避けるための検討が必要。例えば提出元でのスクリーニングなど。

(4) 発表時間は現状を維持し、出来れば討論のために5~10分時間を延長してほしい。あるいは討論時間を活発にするため、講演時間を減らしてもよい。

(5) ポスターセッションは説明者を一方的に質問詰める風潮があるので、質問者も名乗りフェアでオープンな討論、意見交換の場となるよう配慮を望む

正 誤 表

「鉄と鋼」68 (1982) 1, pp. 90~97

「薄い液体金属浴における浸漬ガスジェットの観察」

小沢 泰久・森 一美

ページ	行 目	誤	正
96	右(1)式	$P_0/P_s \geq 2$	$P_0/P_s \leq 2$
96	右(2)式	$P_0/P_s \leq 2$	$P_0/P_s \geq 2$

計算は正しい式で行つていきますので、結果に変更はありません。